

カキ生育情報

千葉県
平成25年9月号

平成25年8月の気象

平成25年8月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温は、第1半旬が平年より0.6℃低く、第6半旬は平年並であったが、その他の半旬は平年を大きく上回った。月平均気温は26.9℃で、平年及び前年よりそれぞれ1.0℃、0.3℃高かった。

降水量は、全ての半旬で平年を下回り、第3及び第4半旬には降雨がなかった。月合計は32mmで、平年の22%、前年の229%倍であった。

日照時間は、第1及び第5半旬を除く全ての半旬で平年を上回った。月合計は254時間で、平年の115%、前年の99%であった。

表1 平成25年8月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	25.3	25.9	26.7	1	22	0	24	37	45
2	27.9	26.1	25.4	1	26	2	45	37	32
3	27.8	26.2	26.5	0	25	7	53	36	26
4	27.8	26.0	26.4	0	22	5	55	35	34
5	27.4	25.8	27.3	9	19	0	18	35	60
6	25.6	25.6	27.0	22	29	0	59	40	59
平均/計	26.9	25.9	26.6	32	143	14	254	220	257

果実の発育

8月30日現在のカキの果径は表2に示した。横径は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ6.25cm、5.97cm、「富有」が6.07cmであった。本年の横径は「西村早生」が平年とほぼ同程度、前年より2%程度大きかった。「松本早生富有」及び「富有」は平年よりそれぞれ4%、6%程度、前年よりそれぞれ1%、2%程度小さかった。

縦径は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ4.49cm、4.48cm「富有」が4.78cmであった。本年の縦径は「西村早生」及び「富有」が平年よりそれぞれ2%、3%程度小さかったが、前年よりそれぞれ2%、4%程度大きかった。「松本早生富有」は、平年並で前年より1%同程度大きかった。

果形指数は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ1.40、1.33、「富有」が1.27であった。本年の果形指数は「西村早生」が平年より高く、横長の傾向であったが、「松本早生富有」及び「富有」は平年より低く、縦長の傾向であった。

本年の果実の発育は平年よりやや遅れている。「西村早生」ではスジ果や変形果が目立っている。いずれの品種も高温乾燥により、巻き気味の葉がやや多く、果実肥大は良くないようである。今のところ目立った病害虫の発生はない。「西村早生」は果実の着色が8月下

旬から始まり、進みが早いようである。収穫期は平年とほぼ同様に9月中旬から10月上旬までと予想される。

表2 果実の発育（8月30日の果径）

品 種	調 査 地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	いすみ市	6.35	6.13	6.00	4.39	4.57	4.36	1.45	1.34	1.38
	暖地園研	6.15	6.29	6.29	4.59	4.59	4.47	1.34	1.37	1.41
	平 均	6.25	6.21	6.15	4.49	4.58	4.42	1.40	1.36	1.40
松本早生富有	市原市	5.83	6.08	5.71	4.44	4.30	4.40	1.31	1.41	1.30
	暖地園研	6.10	6.29	6.33	4.52	4.67	4.43	1.35	1.34	1.43
	平 均	5.97	6.19	6.02	4.48	4.49	4.42	1.33	1.38	1.37
富 有	暖地園研	6.07	6.45	6.18	4.78	4.95	4.60	1.27	1.30	1.34

果形指数：横径／縦径

平年：暖地園研は1990年～2012年の平均、いすみ市、市原市は1998年～2012年の平均

9～10月の作業

収 穫

「西村早生」の収穫が始まり、いよいよ収穫シーズンの到来である。カキの果実は樹上で成熟しながら大きくなり、収穫後に品質が向上することはない。早採りすれば、大きさ、品質の面で適熟の果実より劣り、消費者にカキ本来の味を提供できなくなる。したがって、早採りは避け、収穫前にはカラーチャートを用い適熟の色を確認し、適熟果の収穫に努める。適熟の色はへた部の果皮色で判断し、「西村早生」、「富有」はへた部4、「松本早生富有」はへた部4.5を目安にする。「西村早生」では、渋果の混入を防ぐため、必ず渋果判定機による選別を行う。

追 肥

貯蔵養分の多少は、翌年の樹の生育と着花量を左右する。貯蔵養分を蓄積させるため、礼肥を施す。「西村早生」などの早生品種では収穫直後の10月中旬頃、「松本早生富有」、「富有」及び「次郎」などの中晩生品種では着色初期となる10月中下旬頃を目安に、速効性肥料で施用する。窒素の分量で、年間施肥量の15%程度となる2～3kg/10aが適当である。

病虫害防除

9月上旬～中旬にカキノヘタムシガ、コナカイガラムシ類を防除するため、バンド誘殺を行う。カキノヘタムシガの被害果は地中に埋没する。炭疽病又はうどんこ病の発生が多い園では、9月下旬までが防除適期である。防除の際には、早生品種と中晩生品種の混植園では収穫前使用日数に十分注意する。これらの防除は、千葉県農作物病虫害雑草防除指針に基づいて行う。

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>